

喘息ニュース 2月号

発行 西淀病院・のぞと診療所
喘息グループ

毎日寒い日が続きますね。

風邪などひいていませんか？体調には気をつけてくださいね。



薬を使い始めてから、なんとなく体の調子がおかしいなという時は、もしかしたら薬の副作用が出ているかもしれません。さて、喘息の薬にはどのような副作用があるのでしょうか？



ステロイド剤 のみ薬と吸入薬があります。

強い抗炎症作用や糖分代謝や免疫など様々な作用がある。



重大な副作用：糖尿病、骨粗鬆症、白内障、緑内障、消化性潰瘍、

精神・神経障害、感染症、副腎不全など。

特に飲み薬で注意が必要

その他の副作用：ムーンフェイス、体重増加、むくみ、不眠、多毛など

◎ 飲み薬を長く続けていると重大な副作用の症状が出てきやすいことがある。

⇒ 量の多い人や長い期間飲んでいる人は、定期的なチェックが必要。

◎ 吸入のステロイド剤は使用量が少ないので、上のような副作用は非常に少ない。

吸入薬の副作用：のどのいがいが、声がれ、口内炎、口にカビがはえるなど



うがいをしっかりすることで防げます。

使用後のうがいを忘れずに！！

★ **重要！！**

◎ **勝手にやめないこと！！** かえって調子が悪くなる時がある。

調子がよくても気管支の炎症は残っていて、すぐに症状が悪くなることもある。

⇒ かならず中止・減量する時は、医師と相談してゆっくりと行いましょう。

テオフィリン

気管支拡張作用、炎症抑制効果など。予防として飲み薬が主。

主な副作用：吐き気、胃痛、不眠、頭痛、動悸など。



個人差が非常に激しく、飲み合わせなどもいろいろある。

きちんと指示通りのむこと!のまないと予防効果が薄い。

のみすぎると副作用が出やすい。

飲み間違えた時、点滴の時など特に上の症状に気をつけて。

β_2 刺激薬

交感神経を刺激し、気管支をひろげる。発作・予防に使用。

主な副作用：心臓がドキドキする、手・指が震える、頭痛・不眠など

★注意★ **発作止めの吸入薬を使いすぎない。症状がよくならないなら救急受診する。**



むやみに使いすぎていると、気管支が過敏になってかえって

発作が出やすくなることがある。ひどい時には心臓に影響が

出ることもありうる。1日4回くらいまでなら出ることは少ない。

抗コリン薬

副交感神経を抑えて気管支を縮むのを防ぐ。主に予防の吸入薬。

主な副作用：口が渇く、尿がでにくくなる、まぶしさを感じるなど



緑内障・前立腺肥大の人は基本的に使わないほうがよい。

(病状によっては使うこともある)

何かおかしいなと思ったら、必ず医師・薬剤師・看護師に相談を
してください。特に新しい薬が増えたときなどは、体調がどのように
変わったか、必ず医師に伝えましょう。

